

船舶事故調査報告書

令和3年10月27日  
運輸安全委員会（海事専門部会）議決

事故種類	乗揚
発生日時	令和3年2月3日 09時45分ごろ
発生場所	宮崎県延岡市島野浦港西北西方沖 島野浦港墓ヶ谷外防波堤灯台から真方位287°660m付近 (概位 北緯32°40.2′ 東経131°48.0′)
事故の概要	プレジャーボートMAYAマリンは、航行中、浅瀬に乗り揚げた。
事故調査の経過	令和3年2月8日、主管調査官（門司事務所）を指名 原因関係者から意見聴取手続実施済
事実情報	
船種船名、総トン数	プレジャーボート MAYA マリン、2.8トン
船舶番号、船舶所有者等	252-15971宮崎、個人所有
乗組員等に関する情報	船長、一級小型・特殊・特定
負傷者	軽傷 3人（船長、友人2人）
損傷	船底に破口、機関室等に浸水
気象・海象	気象：天気 晴れ、風向 西、風力 3、視界 良好 海象：海上 平穏、潮汐 高潮時、潮高 約156cm（細島、ほぼ高潮時）
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、友人（以下「同乗者」という。）2人を乗せ、延岡市北浦漁港内の造船所を出航した。</p> <p>本船は、北浦港の外防波堤を通過後、船長が、同乗者の1人を船首部に座らせて見張りをさせ、GPSプロッターを表示させて操舵室に立って手動操舵で操船に当たり、約10ノットの対地速力で南西進した。</p> <p>船長は、右舷船首方約700mに本船に接近してくる漁船を視認したので、本船を右舷方の養殖筏に近づきすぎない程度に少し右転させたところ、船体に衝撃音がして本船が急停止し、右額を何かにぶつけて切創を負った。</p> <p>船長は、船尾方にいたもう一人の同乗者から、浅瀬（<sup>いわしべ</sup>鰐礁、以下「本件浅瀬」という。）に乗り揚げたことを聞き、直ちに造船所に連絡して救援を要請し、来援した漁船に船長及び同乗者2人が移乗した後、船長が海上保安庁に本事故の発生を通報した。</p> <p>船長と同乗者2人は、北浦港に着岸後、延岡市北浦町所在の診療所で治療を受け、船長が頭部裂傷、同乗者の1人が胸部打撲、もう1人が右手橈骨骨折とそれぞれ診断された。</p> <p>本船は、船長及び同乗者が救助された後、水没し、後日陸揚げされた。</p> <p>本件浅瀬は、GPSプロッターに表示されていなかった。</p>

	<p>船長は、本海域を航行した経験があるものの、本件浅瀬の存在を知らなかった。</p> <p>本船の喫水は、中央部及び船尾部が約0.7mだった。</p>
<b>分析</b>	<p>本船は、航行中、船長が本件浅瀬の存在を知らなかったことから、右舷前方から接近する漁船を避航する際、本件浅瀬に向かって右転し、本件浅瀬に乗り揚げたものと考えられる。</p>
<b>原因</b>	<p>本事故は、本船が、航行中、船長が本件浅瀬の存在を知らなかったため、右舷前方から接近する漁船を避航する際、本件浅瀬に向かって右転し、本件浅瀬に乗り揚げたものと考えられる。</p>
<b>再発防止策</b>	<p>今後の同種事故等の再発防止に役立つ事項として、次のことが考えられる。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・ 小型船舶の船長は、事前に航行する海域の調査を実施し、浅瀬等の詳細な情報を入手しておくこと。</li></ul>